

環境を守る、この一箱

問い合わせ

環境課 ごみ減量推進係

(☎内線361) ページID: 1252

表紙の写真は



ダンボールコンポストの中身。
卵の殻、野菜や果物の皮などの生ごみ
を入れることができます。

令和の都だざいふ

一人ひとり
ごみ減量
プロジェクト



太宰府市が抱える ごみの現状

知っていますか？市内のごみ排出量の約80%がもえるごみ、そのうち約40%が生ごみです。生ごみは水分を含むと重く、ごみを出すのにも一苦労です。

本市で1人が1日に排出するもえるごみの量は約617gと決して少なくありません。本年度末までに、この排出量を600gにする目標を掲げています。目標まで1人1日あと約17g。実現のために、一人一人の少しずつの協力が大切です。

ダンボールコンポスト がごみ減量の助けに

そもそもごみを出さない工夫も大切ですが、出てしまったごみを上手に処理する方法があります。その一つが、生ごみを土に還すダンボールコンポストです。

ごみが環境に与える 影響

もえるごみの排出量が増えると、焼却するときに発生するCO₂の排出も増えます。CO₂の増加は、最近の異常気象や海面上昇など、さまざまな気候変動に影響を及ぼしていると言われています。



ダンボールコンポストを始めた 市民モニターに聞きました

市民モニター制度を 新たにスタート

環境にやさしいダンボールコンポストを広く普及するため、ダンボールコンポストを実際に使用してもらう市民モニターの取り組みを本年度から始めました。

利用者の拡大や課題の発見をめざし、将来的には、本市のごみ減量につなげます。

NPO法人太宰府障害者団体協議会と連携し、初回となる本年度は、10人の応募がありました。

事前説明会を開催

初めてダンボールコンポストを使用する人が多く、期待と不安の表情の参加者。アドバイザー資格を持つNPOスタッフが初心者にも分かりやすく紙芝居で使用方法を説明しました。参加者は、ダンボールコンポストに必要な道具セットを自宅に持ち帰り、早速取り組み始めました。



「皆さん熱心でした。失敗はないので頑張ってください」とアドバイザーの藤井智子さん



吉松区の
にしき かよ
錦 華代 さん(30代)
なお ひさ
尚玖 くん(4歳)
家族5人暮らし

市民モニターに興味を持ったきっかけを教えてください

広報紙で市民モニター募集記事を見て、野菜作りや花の肥料に活かせると思いました。大学で環境を学んだので、エコの話にも関心があります。子どもたちも興味があるみたいで、生ごみを持って行こうとすると「僕も行く」と来てくれます。毎日ではないですけど(笑)

自宅のごみは減っていますか

始める前は、もえるごみの袋は中サイズを使っていました。夏休み中はごみの量も増えるはずですが、ダンボールコンポストに生ごみを入れる分、ごみ袋がすかすかになりました。これなら小サイズでも良いです。自分が気づかぬうちに生ごみを出していたんだなと実感しました。

子どもたちも
興味を持ってお手伝いしてくれま

Vol.1

次回、続編をお知らせする予定です。
見逃しなく。



大佐野台区の
ほんだ しゅんご
本田 俊吾 さん(70代)
夫婦2人暮らし

1カ月で10kgの生ごみを投入しました

生ごみはどれくらい投入していますか

開始37日で約10kgを投入しました。忙しい日は中身をかき混ぜられませんが、翌日には分解されて、生ごみを入れることができます。

においはどうですか

心配でしたが気になりません。ポイントは水分です。湿気をしっかり保てばごみの分解菌が働きます。

市民モニターに興味を持ったきっかけを教えてください

住んでいる西校区の環境部担当になり、生ごみの減量が目標です。近所では4世帯が取り組んでいます。この輪を広げたいです。



新町区の
たかた りつこ
高田 里通子 さん(50代)
夫婦2人・母1人暮らし

生ごみはどれくらい投入していますか

2世帯分の生ごみを2日に1回投入して1kgくらいですね。面白かったのが、夏になる前、コンポスト内に、もわーんと湯気のような熱気が出ているのを感じました。分解が進んでいる、これはきっと成功だなと思いました。

引っ越前にも、生ごみ削減に取り組んでいましたか

関東に住んでいたとき、生ごみ処理容器を使っていました。ごみ減量の効果は同じように感じますが、ダンボールコンポストは女性でも持ち運べるコンパクトなサイズで、場所が変えられるから雨風を避けられて便利です。

たい肥ができれば、畑に使用しますか

そのつもりです。自宅の庭では野菜などを育てていて、梅の木もあるので、肥料として使用できるのが楽しみです。

太宰府市に引っ越して
ダンボールコンポストを始めました

あなたも、やってみませんか？

Interview
話を聴きました



NPO法人循環生活研究所（じゅんなま研）
理事長 木村真知子さん

じゅんなま研は、「たのしい循環生活でコンポストを日本の文化に」をミッションに栄養の循環に取り組む。未経験の人にも長く使用してもらえるコンポストを開発。ダンボールコンポストのたい肥を使用した商品を「食べる」「買う」ことから栄養の循環に関わってもらっても良い。コンポストを身近に感じてもらいたいと語る。

「たのしい循環生活」がわたしたちのキャッチコピー。面白い要素を見つけないで、無理せず続けることが大事です。ごみを減らしたいだけだと理由では続かないと思っています。コンポストをする時にペットを育てている気持ちになるという人がいますが、すごく大きな感覚です。

ダンボールコンポストを
これから始めたい人へ



ダンボールコンポストは限られた敷地やマンションなどの共同住宅でも出来るサイズ。使うと分かる、通気が良く臭いが無いのが良いところ。

ダンボールコンポストアドバイザーを養成

じゅんなま研独自の取り組みで、これまでに200人近くを養成してきた。本市で活躍中の藤井智子さん（P8写真）もその一人。認定されると、専用の教材を使ってコンポスト普及・啓発の講座ができる。

どんな人がなれる？

ダンボールコンポストを使用した経験がある人。認定後、アドバイザーとして活動できる人。

どれくらいの期間でなれる？

その年によって時期・回数は変わる。年1回の養成講座、複数回の導入・フォローアップ講座を受講する。認定までは、全部で約半年ほど。

問い合わせ

NPO法人循環生活研究所 福岡市東区三苦4-4-27

☎(405)5217 🌐 <https://www.jun-namaken.com/>



太宰府市内でもダンボールコンポストを購入できます

NPO法人太宰府障害者団体協議会 太宰府市大字通古賀197-3 ☎(925)8899

太宰府市役所 地下売店でも販売中！